

広島小1女児殺害・控訴審始まる (1/2ページ)

2007.11.8 22:10

広島市安芸区の小学1年、[木下あいり](#)ちゃん = 当時(7) = が殺害された事件で、殺人や強制わいせつ致死などの罪に問われ、1審・[広島地裁](#)で無期懲役(求刑・死刑)の判決を受けたペルー人、ホセ・マヌエル・トレス・ヤギ被告(35)に対する控訴審初公判が8日、[広島高裁](#)([榎崎康英](#)裁判長)で開かれ、検察、弁護側双方が控訴趣意書を陳述した。

検察側が「1審判決は著しく軽い」と改めて死刑適用を求めたのに対し、弁護側は殺意やわいせつ目的を否認し[有期懲役](#)が相当とした。来年1月29日の次回公判では被告人質問が行われる。

検察側は、1審では証拠採用されなかったが、被告にペルーでの女児に対する性犯罪の前歴があるとして「幼女への異常な性癖が根深く、更生は困難」と主張。一方、弁護側は被告の[刑事責任能力](#)について「異常な精神状態にあった疑いは払拭(ふっしょく)できない」と述べ、精神鑑定の必要性を強調した。

この日の公判で、検察側はペルーでの犯罪歴に関する書類と死刑適用を要望する署名の証拠採用を、弁護側は精神鑑定と専門家による心理鑑定をそれぞれ請求したが、[榎崎裁判長](#)はいずれも採否を留保した。